

ポータブルガスリーク検知器  
SP-220シリーズ

SP-220 (TYPE M)

SP-220 (TYPE L)

SP-220 (TYPE ML)

取扱説明書

(PT0-139)

**理研計器株式会社**

〒174-8744 東京都板橋区小豆沢 2-7-6

ホームページ <https://www.rikenkeiki.co.jp/>

# 目次

1. 製品のアウトライン	3
はじめに	3
使用目的	3
危険、警告、注意、注記の定義	3
規格および防爆仕様の確認方法	4
2. 安全上、大切なお知らせ	5
2-1. 危険事項	5
2-2. 警告事項	5
2-3. 注意事項	6
2-4. セーフティインフォメーション(ATEX/IECEX/UKEX 仕様向け)	8
3. 製品の構成	9
3-1. 各部の名称と働き	9
4. 使用方法	12
4-1. ご使用にあたって	12
4-2. 始動準備	12
4-3. 電池の交換方法	12
4-4. 始動方法	14
4-5. 基本動作フロー	16
4-6. 検知する	17
4-7. 警報点の切り替え	18
4-8. エア校正する	19
4-9. スナップロガ	20
4-10. ピークホールド機能	21
4-11. 警報音と操作音の切り替え	21
4-12. 照明ライトの点灯方法	22
4-13. 電源を切る	22
5. ディスプレイモードの設定方法	23
5-1. ディスプレイモードへの遷移	23
5-2. 測定ガス切り替え設定	25
5-3. ログデータ表示	26
6. ユーザーモードの設定方法	27
6-1. ユーザーモードへの遷移	27
6-2. 日時設定	29
6-3. 時計機能 ON/OFF 設定	30
7. 警報機能	31
7-1. ガス警報動作	31
7-2. 故障警報動作	31
8. 保守点検	32
8-1. 点検の頻度と点検項目	32
8-2. 清掃方法	34
8-3. 各部品の交換	34
9. 保管および廃棄について	37
9-1. 保管または長期間使用しない場合の処置	37
9-2. 再度使用する場合の処置	37
9-3. 製品の廃棄	38
10. トラブルシューティング	39
11. 製品仕様	41
12. 付録	42
12-1. 用語の定義	42

## 1

# 製品のアウトライン

## はじめに

この度は、ポータブルガスリーク検知器 SP-220 シリーズ(以降「本器」)をお買い上げいただきありがとうございます。お買い求めの製品型番と本取扱説明書に記載の仕様を照合し、ご確認をお願いします。

本書は本器の取扱方法と仕様を説明したものです。本器を正しく使用していただくために必要な事項が記載されています。初めて使用される方はもちろん、既に使用されたことのある方も、知識や経験を再確認する上で、よくお読みいただき、内容を理解した上で使用してください。

なお、製品改良のために、この説明書の内容を将来予告なしに変更することがあります。また、この説明書の全部または一部を無断で複写または転載することを禁じます。

保証期間の内外を問わず本器を使用することによって生じたいかなる事故および損害の補償はいたしません。保証書に記載されている保証規定を必ずご確認ください。

## 使用目的

本器は、大気中の都市ガス、LP ガスなど、1 成分を検知するものです。  
本器には、都市ガスの漏洩検知を目的とする TYPE M、LP ガスの漏洩検知を目的とする TYPE L、都市ガス・LP ガスの漏洩検知を目的とし、それぞれのガスについて別々のガス校正可能な TYPE ML の 3 種類の仕様があります。検知結果により、生命・安全の保障をするものではありません。

## 危険、警告、注意、注記の定義

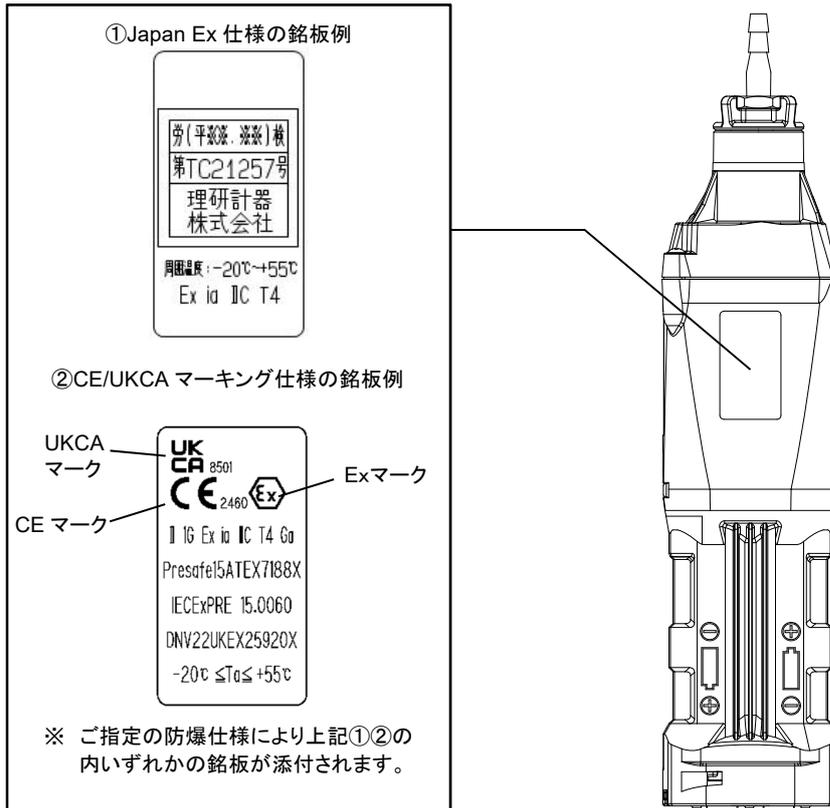
本取扱説明書では、安全かつ効果的な作業が行えるように、次の見出しを使用しています。

 <b>危険</b>	取り扱いを誤った場合、「人命、人体または物に重大な被害を及ぼすことが想定される」ということを意味します。
 <b>警告</b>	取り扱いを誤った場合、「身体または物に重大な被害を及ぼすことが想定される」ということを意味します。
 <b>注意</b>	取り扱いを誤った場合、「身体または物に軽微な被害を及ぼすことが想定される」ということを意味します。
<b>注記</b>	取り扱い上のアドバイスを意味します。

## 規格および防爆仕様の確認方法

本器は、規格や防爆検定の種類によって仕様が異なります。ご使用になる前に、お手元にある製品の仕様をご確認ください。なお、CE/UKCA マーキング仕様をご使用になる場合、巻末の自己宣言書 (Declaration of Conformity) を参照してください。

製品の仕様は、製品に下図の通り貼付された銘板よりご確認ください。



## 2

# 安全上、大切なお知らせ

本器の性能を維持し、安全にお使いいただくため、以下の危険、警告、注意事項を守ってください。

## 2-1. 危険事項



### 危険

#### ご使用において

- マンホールの中や密閉場所を測定する場合、絶対にマンホールの入り口に身を乗りだしたり、中をのぞき込んだりしないでください。酸素欠乏空気、その他のガスが吹き出す可能性があります。危険です。
- 本器のガス排出口は、酸素欠乏空気などが排出される場合があります。絶対に吸気しないでください。
- 本器のガス排出口は、高濃度(100%LEL 以上)のガスが排出される場合があります。絶対に火気を近づけないでください。

## 2-2. 警告事項



### 警告

#### サンプリングポイントの圧力

- 本器は大気圧状態の雰囲気ガスを吸引するように作られています。本器のガス吸入口、ガス排出口に過大な圧力をかけると、内部から測定ガスが漏洩する可能性があります。過大な圧力がかからないようにして使用してください。

#### 周辺空気でのエア校正

- エア校正を周辺空気で行う場合は、周辺が新鮮な大気であることを確認してから行ってください。雑ガスなどが存在する状態で行うと、正しい調整が行えず、実際にガスが漏洩した場合、危険です。

#### ガス警報が発報されたときの対応

- 温度と湿度の変化でガス警報を発報します。このようなときは、周辺が新鮮な大気であることを確認し、測定雰囲気ですべて再度エア校正を行ってください。

例) 温度 20℃、湿度 40%RH の室内で本器の電源を ON し、屋外(温度 30℃、湿度 60%RH)に本器を持ち出した場合には、湿度変化で警報を発報します。このような場合は、屋外でエア校正を行い、測定してください。

本器は電源 ON 時に自動でエア校正を行います。その場合も、周辺が新鮮な大気であることを確認し、測定雰囲気ですべて再度エア校正を行ってください。

**警告****電池残量の確認**

- 使用される前に電池残量を確認してください。長期間使用しなかった場合は、電池が消耗していることが考えられます。必ず新しい電池に交換してから使用してください。
- 電池電圧低下警報が発せられると、ガス検知を行えなくなります。使用中に発報した場合は、電源を切り安全な場所で速やかに電池を交換してください。

**その他**

- 火中に投げ入れないでください。
- 洗濯機や超音波洗浄機などで本器を洗わないでください。
- ブザー放音口をふさがないでください。警報音が出なくなります。
- 電源を入れた状態で電池を外さないでください。

**2-3. 注意事項****注意**

油・薬品などがかかるような場所では使用しないでください。また故意に水中に沈めるようなことは避けてください

- 本器に油・薬品など液体がかかるような場所は避けて使用してください。
- 本器は耐水圧設計ではありませんので、高い水圧がかかる場所（蛇口、シャワーなど）でのご使用や、水中に長時間沈めることは避けてください。なお、本器の防水性能は真水、水道水にのみ対応しており、温水や塩水、洗剤、薬品、汗などには対応していません。
- ガス吸入口、およびガス排出口は防水構造ではありません。この箇所から雨水など、水の浸入がないように注意してください。ガスを検知できなくなります。
- 本器を水や泥のたまるような場所に置かないでください。このような場所に置くと、ブザー穴などから水や泥が入り故障の原因となる恐れがあります。
- 汚水、粉塵、金属粉などを吸引すると、センサの感度が著しく低下します。このような環境下では注意してご使用ください。

**温度が-20℃未満または 55℃を超える場所では使用しないでください**

- 本器の使用温度範囲は-20℃～+55℃です。使用範囲を超えた高温・高湿、高圧、低温環境下での使用は避けてください。
- 直射日光が当たる場所での長時間にわたる使用は極力避けてください。
- 炎天下駐車の内車での保管は避けてください。
- 急激な湿度・温度変化は避けてください。
- 高温多湿の場所に長く放置しないでください。機器の性能を損なう可能性があります。

**本器やガス採集チューブ中に結露が発生しないよう使用範囲を守ってください**

- 本器やテーパノズルに結露が発生すると、詰まったり、ガスが吸着したりするなど正確なガス測定を行えなくなるので、結露することは厳禁です。本器の使用環境とあわせて、サンプリング先の温度・湿度には十分注意し、本器やテーパノズルに結露などが発生しないようにしてください。必ず使用範囲を守るようお願いいたします。

**本器の近くでは、トランシーバを使用しないでください**

- 本器の近くでトランシーバなどによる電波を発射すると、指示に影響する場合があります。トランシーバなどを使用する場合には、影響の出ないところで使用してください。
- 強い電磁波の発生する機器（高周波機器・高電圧機器）の近くでの使用は避けてください。

**フロー確認表示が回転動作していることを確認して使用してください**

- フロー確認表示が動作していない場合は、正しいガス測定ができません。流量が喪失していないか確認してください。

**定期的な点検を必ず行ってください**

- 本器は精密機器につき、定期的な点検を必ず行ってください。点検を行わずに使用を続けると、センサの感度が変化し、正確なガス検知を行えません。



## 注意

### その他

- 連続してガスが接触した後や、高濃度ガスが接触した後は警報動作が続く場合があります。その場合は、清浄空気を5分間以上(推奨)吸引し再度、エア校正を行ってください。
- むやみにボタンを押すと、各設定が変更されてしまい、警報が正常に作動しないことがあります。本書に記載されている以外の操作は行わないでください。
- 落下させたり、衝撃を与えたりしないでください。精度の低下を招くことがあります。
- ブザーの開口部を先の尖ったもので突かないでください。故障や破損の原因となる恐れがあります。
- 表示部のパネルシートを剥がさないでください。防水/防塵性能が損なわれます。
- 赤外線ポート部にラベルなどを貼付しないでください。赤外線通信ができなくなります。
- 使用環境には本器のセンサに悪影響を及ぼすガスも存在する場合があります。以下に示すガス存在下での使用はできません。

- ① 高濃度硫化物(H<sub>2</sub>S、SO<sub>2</sub>など)
- ② ハロゲン系ガス(塩素化合物など)
- ③ シリコーン(Si化合物)
- ④ 高濃度溶剤ガス

上記①～③のガス(高濃度硫化物、ハロゲン系ガス、シリコーンなど)の存在下で使用すると、センサの寿命が極端に短くなったり、正確な指示が得られなくなったりなどの不具合が発生しますので、このような環境では使用しないでください。

万一、シリコーンなどが存在する場所で検知を行った場合、次に使用するまでに必ずガス感度を確認してください。

また、上記④のガス(高濃度溶剤ガス)が暴露すると、機器にクラックが発生する可能性がありますので、高濃度の溶剤ガスとの接触は避けてご使用ください。

### 電池交換について

- 電池を交換する場合は、必ず本器の電源をOFFにしてから行ってください。
- 電池を交換する場合は、2本とも新しい電池を使用してください。
- 電池の極性に注意してください。

### 使用に関して

- 低温度の環境では、電池の性能上、使用時間が短くなります。
- 低温時はLCD表示の応答が遅くなる場合があります。
- エア校正は、使用環境に近い状態の圧力、温湿度条件下かつ新鮮な空気中で行ってください。
- エア校正は指示が安定してから行ってください。
- 保管場所と使用場所の温度が15℃以上急変するような場合、電源を入れた状態で使用場所と同様の環境下にて10分程度馴染ませ、新鮮な大気中でエア校正を実施してから使用してください。
- 本器の汚れを拭き取る際、水をかけたり、アルコールやベンジンなどの有機溶剤を用いたりしないでください。本器表面が変色したり、損傷したりする可能性があります。
- 長期間使用しない場合でも、6ヶ月に一度は電源を入れ、ポンプが吸引することを確認してください(3分間程度)。長期間動作させずにいると、ポンプのモータ内のグリスが固まり動作しなくなることがあります。
- 長期間使用しない場合は、乾電池を抜いて保管してください。電池の液漏れにより、火災、ケガなどの原因となることがあります。
- 長期の保管後、再度使用する場合は必ずエア校正を行ってください。エア校正を含めて、再調整は弊社営業所までお問い合わせください。

## 2-4. セーフティインフォメーション(ATEX/IECEX/UKEX 仕様向け)

ポータブルガスモニターSP-220 は可燃性ガスを連続で検知するガスモニターです。  
 ガスは内蔵マイクロポンプにて吸引します。  
 電源は直列 2 本につながれた東芝製の単 3 形アルカリ乾電池(LR6T)のみを使用してください。  
 乾電池の交換は、危険場所では行わないでください。

### 防爆仕様

・Ex ia IIC T4 Ga



II 1 G Ex ia IIC T4 Ga

・周囲温度範囲 : -20°C~+55°C

### 電氣的仕様

・使用できる乾電池は東芝製単 3 形アルカリ乾電池(LR6T)です。

### 認証番号

・IECEX : IECEX PRE 15.0060  
 ・ATEX : Presafe15 ATEX7188X  
 ・UKEX : DNV 22 UKEX 25920X

### 適用規格

・IEC 60079-0:2017	・EN IEC 60079-0:2018	・BS EN IEC 60079-0:2018
・IEC 60079-11:2011	・EN 60079-11:2012	・BS EN 60079-11:2012

### 本型式認証取得に係わる条件

ATEX 指令付属書 II 1.5.5 項に基づく測定機能は、本 EU 型式認証書には含まれません。  
 ガスパフォーマンス及びセーフティデバイスの要求については、別途欧州整合規格の要求に適合する必要があります。  
 規制 UKSI 2019 No. 1107 の schedule 1 第 24 項に項に基づく測定機能は、本 UK 型式認証書には含まれません。  
 ガスパフォーマンス及びセーフティデバイスの要求については、別途英国指定規格の要求に適合する必要があります。

### 注意事項

- ・電池ユニットを危険場所で交換しないでください。
- ・危険場所で乾電池を交換しないでください。
- ・機器を分解または改造しないでください。
- ・乾電池ユニットには東芝製の単 3 形アルカリ乾電池 (LR6T)のみを使用してください。

INST. No. 0000000000

A B C D E

- A: 製造年 (0-9)  
 B: 製造月 (1-9 月、X<10 月>、Y<11 月>、Z<12 月>)  
 C: 製造ロット  
 D: シリアルナンバー  
 E: 工場コード

### 製造者



理研計器株式会社  
 〒174-8744 東京都板橋区小豆沢 2-7-6  
 ホームページ <https://www.rikenkeiki.co.jp/>

### 注記

Japan Ex 仕様(国内仕様)では乾電池型式は東芝製の単 3 形アルカリ乾電池 LR6 を使用可能です。

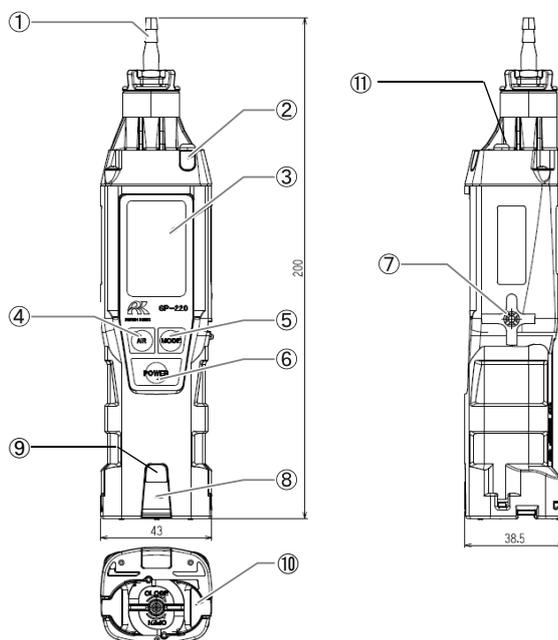
## 3

## 製品の構成

## 3-1. 各部の名称と働き

本体と電池ユニットの各部の名称と働きおよび LCD 表示について記載しています。

## 本体

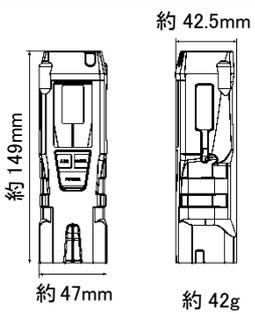
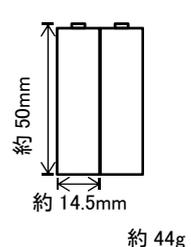
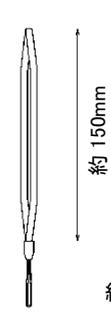
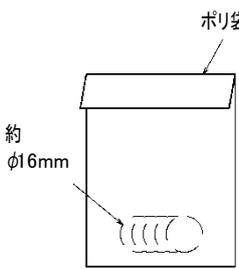


番号	名称	働き
①	ガス吸引口	ガスを採集します。
②	警報窓	警報時、ランプが点滅・点灯します。
③	LCD 表示部	ガス濃度や測定ガス名、警報などを表示します。
④	AIR ボタン	長押しすると、エア校正を行います。また設定モード時の切り替え操作や入力数値を下げるときに使用します。
⑤	MODE ボタン	表示を切り替えるときに押します。また設定モード時の切り替え操作や入力数値を上げるときに使用します。
⑥	POWER ボタン	電源の ON/OFF を行います。また設定モード時の切り替え操作や確定操作に使用します。
⑦	ガス排出口	吸引したガスを排出する口です。(ふさがないでください。)
⑧	警報窓	警報時、ランプが点滅・点灯します。
⑨	赤外線ポート	赤外線通信時に使用します。
⑩	電池蓋	電池を保護する蓋です。電池を交換するときに外します。
⑪	LED 照明	LED 照明で手元を照らすことができます。

## 標準付属品

梱包箱を開けて、本器と付属品を確認してください。

- 単3形アルカリ乾電池:2本(実装)
- テーパーノズル:1本
- 保護カバー:1個(何かにつつけたときなどの衝撃から、本器を保護します。)
- ハンドストラップ:1本
- 交換用防水フィルタ(5枚)
- 製品保証書:1枚
- 取扱説明書:1冊

名称	外観・質量	数量	名称	外観・質量	数量
保護カバー		1個 (実装)	単3形 アルカリ乾電池		2本 (実装)
テーパーノズル		1本	ハンド ストラップ		1本
交換用 防水フィルタ		1袋 (5枚入)	取扱説明書	—	1冊
			製品保証書	—	1枚

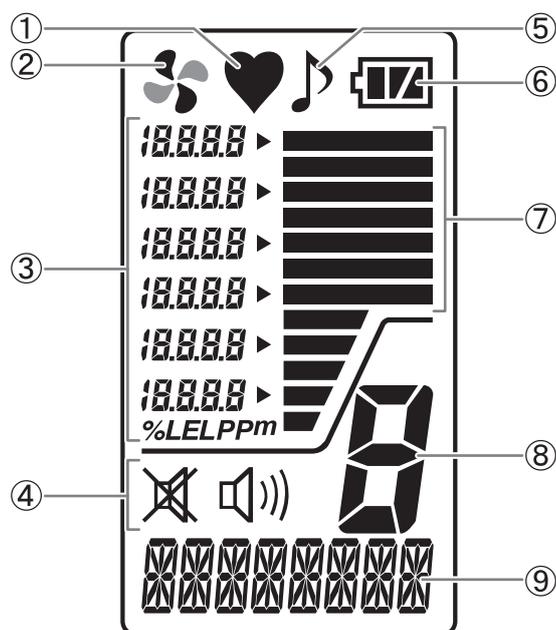
万一、足りないものがありましたら、販売店または最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。



## 注意

- 表示部のパネルシートを剥がさないでください。防水/防塵性能が損なわれます。
- 赤外線ポート部にラベルなどを貼付しないでください。赤外線通信ができなくなります。

## LCD 表示部



番号	名称	働き
①	動作状態表示	検知モードでの動作状態を表示します。正常時:点滅。
②	フロー確認表示	吸引状態を表示します。正常時:回転。
③	ガス濃度表示	ガスの濃度値と単位を表示します。
④	警報音表示	警報音の設定状態を表示します。
⑤	操作音表示	操作音の設定状態を表示します。
⑥	電池残量表示	電池残量の目安を表示します。
⑦	バーメータ表示	ガス濃度値をバーメータにより、レベル表示します。
⑧	モード表示	測定モード状態を表示します。
⑨	ガス名/メッセージ表示	ガス名と機能に合わせたメッセージを表示します。

### 注記

- 電池残量表示による電池残量の目安は、以下の通りです。  
 :十分に残っています /  少なくなっています /  :電池を交換してください。  
 さらに電池残量が少なくなると、電池マーク内が点滅()し始めます。

## 4

## 使用方法

## 4-1. ご使用にあたって

本器を初めて使用される方、また既に使用された経験のある方も、使用方法の注意事項を必ず守ってください。これらの注意事項を守らない場合には、機器の故障が生じ、正常なガス測定が行えない場合があります。

## 4-2. 始動準備



## 警告

- 本器の表示部には、傷防止のため出荷時に保護フィルムが貼付されています。ご使用になる前に、必ずこの保護フィルムを剥がしてください。この保護フィルムを貼付したままの製品では、防爆性能を満足できません。

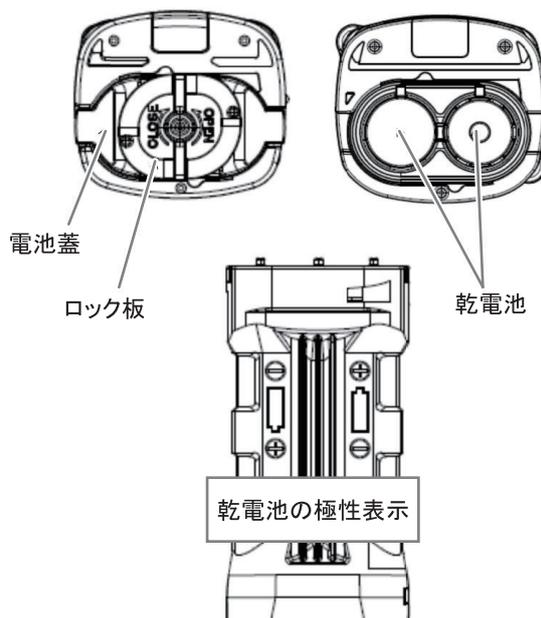
ガス検知を開始する前に、以下の内容を確認してください。

- ・傷防止のため出荷時に表示部に貼付された保護フィルムが付いていないこと
- ・電池が装着されている(および電池残量が十分)こと
- ・テープノズルおよびフィルタに汚れがないこと
- ・テープノズルに、折れや穴が開いていないこと
- ・テープノズルが取り付けニップルがゆるんでいないこと

## 4-3. 電池の交換方法

初めて使用する場合や電池残量が少ない場合は、以下の要領で新品の単 3 形アルカリ乾電池 2 本を装着してください。

- 1 本器の電源が切れていることを確認する  
電源が入っている場合、いったん切ってください。
- 2 ロック板を反時計方向に回して、電池蓋を開ける
- 3 古い電池を取り出し、電池の極性に注意して新しい電池を入れる
- 4 電池蓋を閉め、ロック板を時計方向に回してロックする



**注意**

- 必ず本器の電源を切ってから電池を入れ替えてください。
- 安全な場所で電池を交換してください。
- 交換する電池は、2本とも新しい電池を使用してください。
- 交換時には、極性に注意してください。極性は、ボディに刻印してある電池極性を確認して行ってください。
- 電池蓋のロックが不完全ですと、乾電池が脱落したり、すき間から水が浸入したりすることがあります。また本器と電池蓋の間に微細な異物が挟まっているときも、水が浸入する可能性があります。

## 4-4. 始動方法

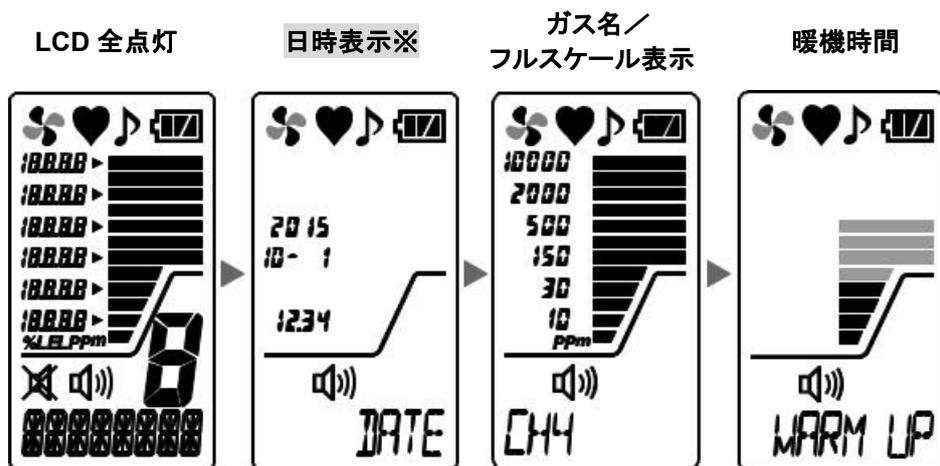
電源を入れると自己診断が行われ、検知モードになります。

### 電源を入れる

**POWER** ボタンをブザーが“ピッ”と鳴るまで(1 秒以上)押しと電源が入ります。  
電源を入れると、以下のように LCD 表示が自動的に切り替わり、検知モードになります。  
(表示例: 都市ガス用の場合)

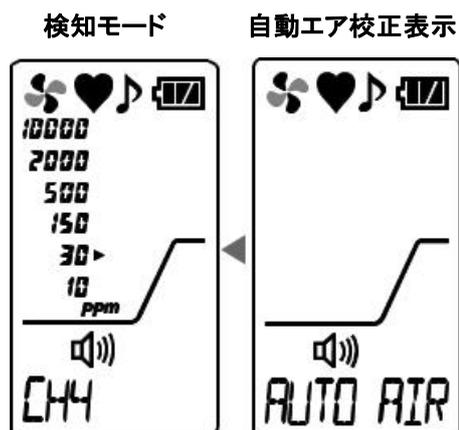
#### 1 **POWER** ボタンを 1 秒以上押し

LCD が全点灯し、警報ランプが点灯してブザー音が“ピッ”と鳴るまで押ししてください。



表示例:  
2015 年 10 月 1 日  
12 時 34 分

表示例: CH4



ブザー音が“ピッ”  
と 1 回鳴り、検知  
モードが表示され  
ます。

※日時表示は時計機能 ON のときのみ表示されます。初期設定は時計機能 OFF ですので表示されません。  
時計機能 ON にする場合は「6-3.時計機能 ON/OFF 設定(P.30)」を参照願います。

### 注記

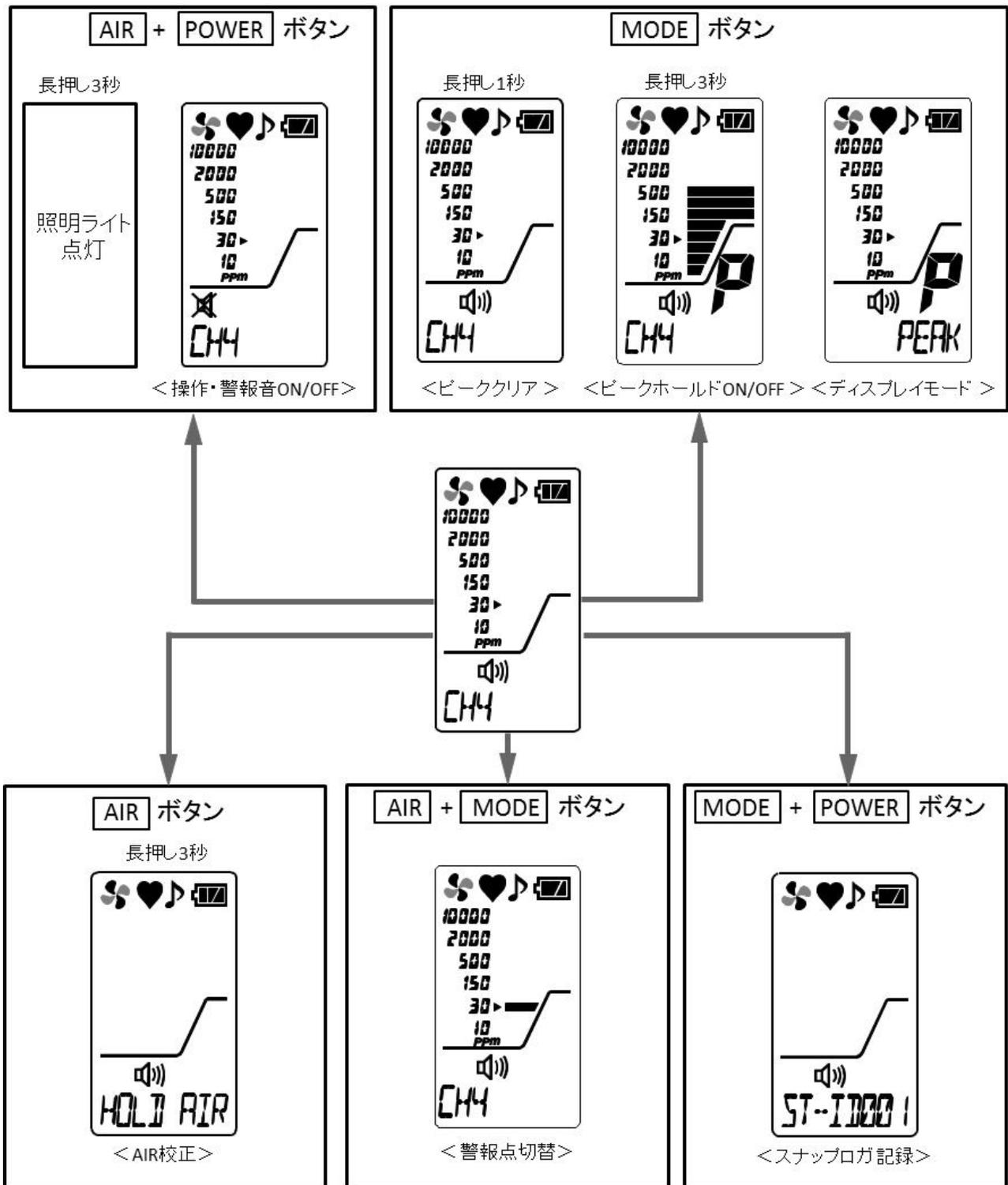
- 時計機能 ON に設定した場合、電池交換の際などに電池を外した状態で 5 分間以上放置した後に電源を入れた場合、または電池の極性を誤って挿入したまま電源を入れたときは、時計異常 (FAIL CLOCK) になります。**[MODE]** ボタンを押して解除すると日時設定画面に移りますので「6-2. 日時設定 (P.29)」を参照して日時を設定してください。
- 暖機時間 (WARM UP) は、センサの安定状況により異なります。
- 長時間使用していなかった場合は、暖機時間が長くなったり、センサ異常 (FAIL SENSOR) を表示する場合があります。このようなときは、再起動してください。
- 本器は起動時に自動的にエア校正が行われます。電源を入れた環境が測定雰囲気と異なる場合は、測定雰囲気で再度エア校正を行ってください。

### LCD バックライトについて

- **[AIR]**、**[MODE]**、**[POWER]** のいずれかのボタンを押すと、LCD バックライトが点灯します。LCD バックライトは、約 30 秒間無操作ですと消灯します。  
また、警報発報時には自動的に LCD バックライトが点灯します。

## 4-5. 基本動作フロー

電源を入れてから、検知モードで使用します。  
 (表示例: 都市ガス用の場合)



※時計機能 ON 時のみ表示「6-3. 時計機能 ON/OFF 設定(P.30)」参照

## 4-6. 検知する

検知モードで、検知箇所にてテープノズルの先端を近づけ、ガス検知を行います。ガスを吸引すると、LCD 表示部に検知したガス濃度をバーメータで表示します。



### 危険

- マンホールの中や密閉場所を測定する場合、絶対にマンホールの入り口に身を乗りだしたり、中をのぞき込んだりしないでください。酸素欠乏空気、その他のガスが吹き出す可能性があります。危険です。
- 本器のガス排出口は、酸素欠乏空気などが排出される場合があります。絶対に吸気しないでください。
- 本器のガス排出口は、高濃度(100%LEL 以上)の可燃性ガスが排出される場合があります。絶対に火気を近づけないでください。



### 警告

- 本器は大気圧状態の雰囲気中のガスを吸引するように作られています。本器のガス吸入口、排出口に過大な圧力を掛けると、内部から検知ガスが漏洩する可能性があります。過大な圧力が掛からないようにして使用してください。
- エア校正を周辺空気で行う場合は、周辺が新鮮な大気であることを確認してから行ってください。雑ガスなどが存在する状態で行うと、正しい調整が行えず、実際にガスが漏洩した場合、危険です。
- ガス警報を発した場合は大変危険です。お客様の判断により適切な処置を行ってください。
- ご使用前に電池の残量を確認してください。長期間使用しなかった場合は、電池が消耗していることが考えられます。必ず新しい電池に交換してからご使用ください。
- 電池低下警報が発せられると、ガス検知を行えなくなります。使用中に発報した場合は、電源を切り、安全な場所で速やかに電池を交換してください。
- ブザー放音口をふさがないでください。警報音が出なくなります。
- 本体を落下、または衝撃を加えた場合には、指示値が上昇したままとなることがあります。このようなときは、周辺が新鮮な大気の場所でエア校正を行ってください。



### 注意

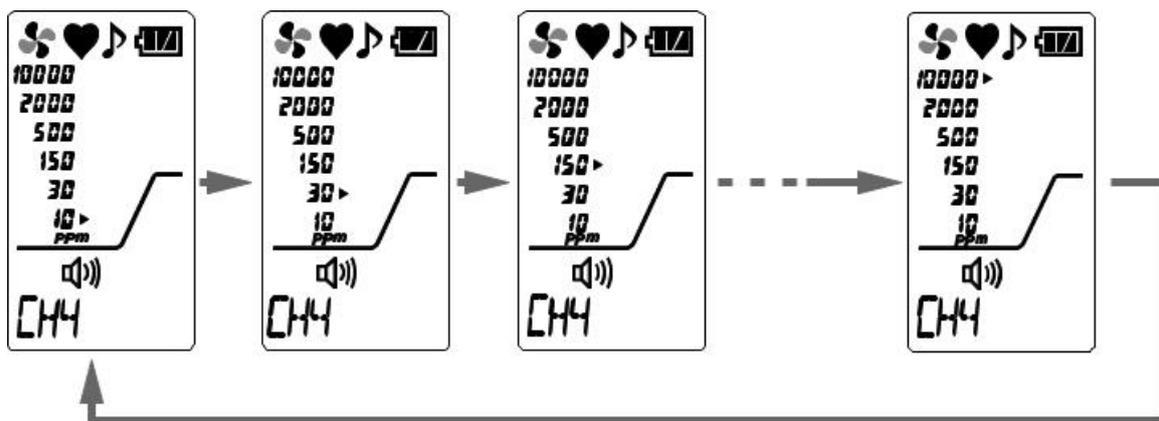
- ガス検知をする場合は、雰囲気中のダストによる影響を避けるために、付属のテープノズルを取り付けてご使用ください。

## 4-7. 警報点の切り替え

本器は、出荷時に検知ガス種を都市ガス(CH<sub>4</sub>)、LPガス(LPG)警報点は30ppmに設定されています。  
警報点は、用途に合わせて5段階に切り替えて使用できます。

### 警報点の切り替え方法

- 1 検知モードで、**AIR** ボタンと **MODE** ボタンを同時に押す  
**AIR** ボタンと **MODE** ボタンを押すたびに、警報点が5段階に切り替わります。



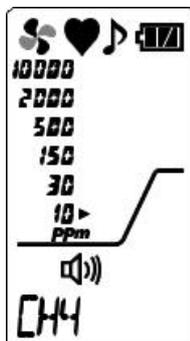
#### 注記

- 10000ppm には警報設定出来ません。

## 4-8. エア校正する

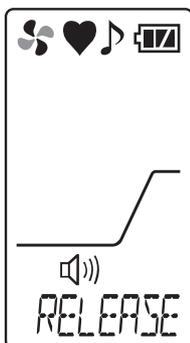
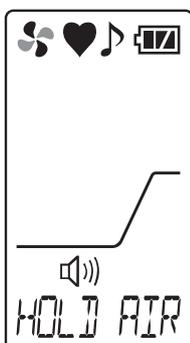
高濃度ガス検知後や、温度・湿度変化による警報の発報後には、測定雰囲気で、エア校正してください。  
 ※エア校正の際、周囲が新鮮な大気中であることを確認してください。  
 (表示例:都市ガス用の場合)

- 1 検知モードで、**AIR** ボタンを長押しする

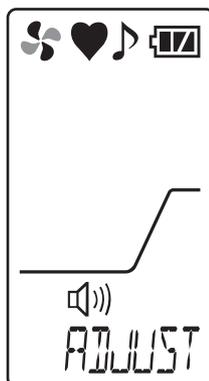


(都市ガス用の表示)

- 2 「HOLD AIR」表示から  
 「RELEASE」表示に替わったら、**AIR** ボタンを離す  
 (ブザー鳴動:3回<ピッピッピ>)



エア校正され、検知モードに戻ります。  
 (ブザー鳴動:1回<ピッ>)



エア校正不良の場合、「FAIL AIR CAL」が表示されます。  
 周囲が新鮮な大気中で、再度エア校正を行ってください。

### 注記

- エア校正は、使用環境に近い状態の圧力、温湿度条件下かつ新鮮な大気中で行ってください。
- エア校正は指示が安定してから行ってください。
- 保管場所と使用場所の温度や湿度が急変するような場合、電源を入れた状態で使用場所と同様の環境下にて 10 分程度馴染ませ、新鮮な大気中でエア校正を実施してから使用してください。

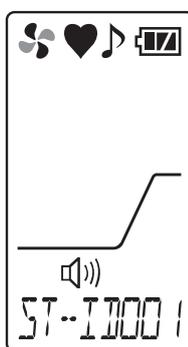
## 4-9. スナップログ

測定中の任意のピーク値を記録することができます。

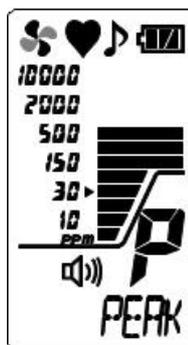
データは、最大 256 点まで記録することができ、データ記録数が最大になった場合、最も古いデータから上書きしていきます。

本機能は時計機能 ON 時に有効です。初期設定は時計機能 OFF のため、スナップログ機能を使用する前に時計機能 ON に設定してください(「6-3.時計機能 ON/OFF 設定(P.30)」参照)。

- 1 検知モードで、**MODE** ボタンと **POWER** ボタンを同時に押す  
ステーション ID 選択画面へ遷移します。

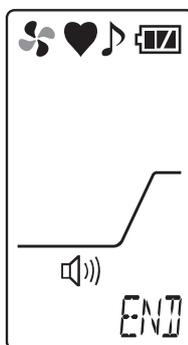


- 2 **MODE** ボタンまたは **AIR** ボタンでステーション ID を選択し、**POWER** ボタンを押す  
ピーク値が表示されます。



記録を中止する場合は **AIR** ボタンと **MODE** ボタンを同時に押してください。検知モードに戻ります。

- 3 **POWER** ボタンを押す  
日時とピーク値が記録されます。



続けてログを記録するときは、手順 2~3 を繰り返してください。  
ログの記録を終了するときは、**AIR** ボタンと **MODE** ボタンを同時に押してください。検知モードに戻ります。

### 注記

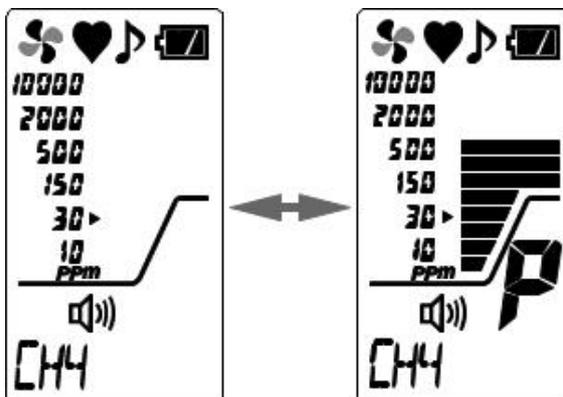
- 記録されたデータは「データログマネージメントプログラム」(別売)により読み出すことができます。詳細は「データログマネージメントプログラム」用の取扱説明書を参照してください。

## 4-10. ピークホールド機能

ピークホールド機能を ON にすると、最新のピーク値を常にバーメータ表示で表示します。  
(表示例: 都市ガス用の場合)

- 1 検知モードで、**MODE** ボタンを長押し(3 秒間以上)する  
ピークホールド機能が ON になります。ピークホールド機能 ON 時、LCD 表示部に "P" が表示されます。

ピークホールド機能を OFF にするときは、**MODE** ボタンを 3 秒間以上長押ししてください。



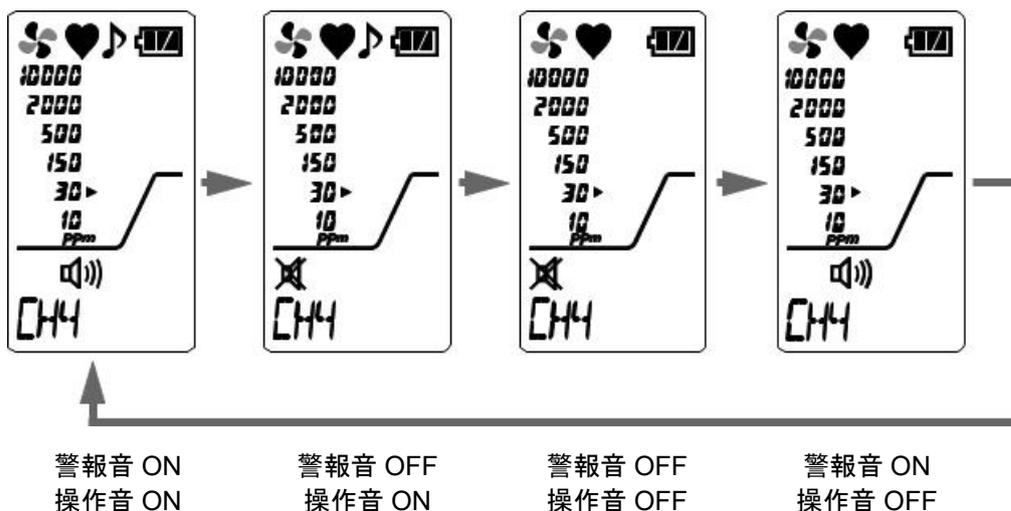
### 注記

- 保持しているピーク値をクリアする場合は、検知モードで **MODE** ボタンを長押し(1 秒間)してください。

## 4-11. 警報音と操作音の切り替え

警報音と操作音を ON/OFF します。  
(表示例: 都市ガス用の場合)

- 1 検知モードで、**AIR** ボタンと **POWER** ボタンを同時に押す  
**AIR** ボタンと **POWER** ボタンを押すたびに、警報音と操作音の設定を切り替えられます。



## 4-12. 照明ライトの点灯方法

計測場所が暗いときなどに照明ライトを点灯できます。

### 1 **AIR** ボタンと **POWER** ボタンを同時に長押し(3 秒間以上)する

照明ライトが点灯します。照明ライトは、点灯開始から約 2 分後に自動的に消灯します。

照明ライトを消すときは、**AIR** ボタンと **POWER** ボタンを同時に長押し(3 秒間以上)してください。

## 4-13. 電源を切る

**POWER** ボタンをブザーが“ピッピッピッ”と鳴る(「TURN OFF」表示が消える)まで(3 秒以上)押すと電源が切れます。



### 注意

- 本器内にガスが残っていると、自動排気モード(最大で 30 秒間)に入りますが、自動排気後には電源が OFF になります。自動排気開始(PURGE 30)からカウントダウンし、ガスの排気が完了した時点で「TURN OFF」表示に切り替り、電源が切れます。



自動排気開始(PURGE 30)

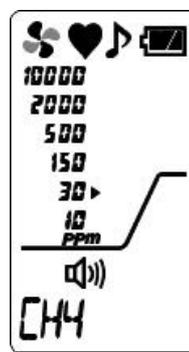
## 5

## ディスプレイモードの設定方法

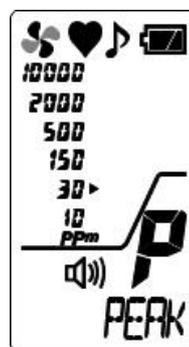
## 5-1. ディスプレイモードへの遷移

このモードでは、各種表示の確認と変更などを行うことができます。  
(表示例: 都市ガス用の場合)

- 1 検知モードで、**MODE** ボタンを押す  
ディスプレイモードのピーク値表示に遷移します。



- 2 続けて **MODE** ボタンを押して、該当メニューを表示させる  
押すたびに、ディスプレイモードの設定画面が切り替わります。  
長押ししても設定画面が切り替わり、検知モードに戻ると設定画面の切り替わりは停止します。

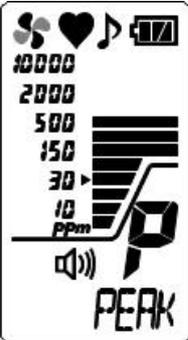
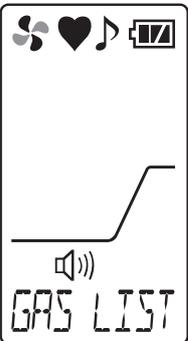
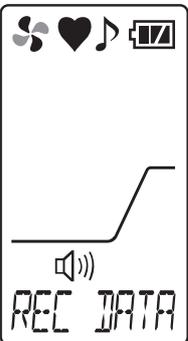
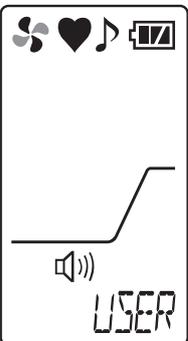


- 3 設定項目を選択して、**POWER** ボタンを押す  
設定項目については、「ディスプレイモードの概要」(P.24)を参照してください。

## 注記

- 何も操作をしないと、約 20 秒後に、自動的に検知モードに戻ります。
- ディスプレイモードでは、ガス検知継続しており、警報作動します。

## ディスプレイモードの概要

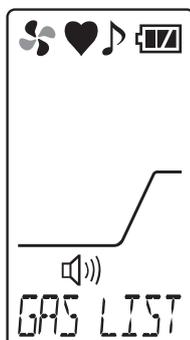
項目	LCD 表示	内容
ピーク表示		<p>電源を入れてから確認する時点までの間で、検知した最高濃度を表示します。</p> <p>※ピーク表示をクリアするときは、<b>AIR</b> ボタンを“PEAK CLR”と表示されるまで長押しします。</p>
測定ガス切り替え設定		<p>本器に予め登録してあるガスに設定変更することで、検知対象ガスから読み替えたガスの濃度を表示します。</p> <p>(P.25)</p>
ログデータ表示		<p>スナップログで記録したデータを表示します。(P.26)</p> <p>※時計機能 ON 時のみ表示 「6-3.時計機能 ON/OFF 設定 (P.30)」参照</p>
ユーザーモード遷移		<p>ユーザーモードへ遷移します。</p> <p>(P.27)</p>

## 5-2. 測定ガス切り替え設定

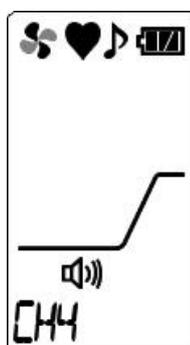
通常、本器の濃度表示の初期設定は仕様により、「CH4 または LPG」ですが、それぞれの仕様で LPG または CH4 に切り替え、濃度検知することができます。

(表示例: 都市ガス用の場合)

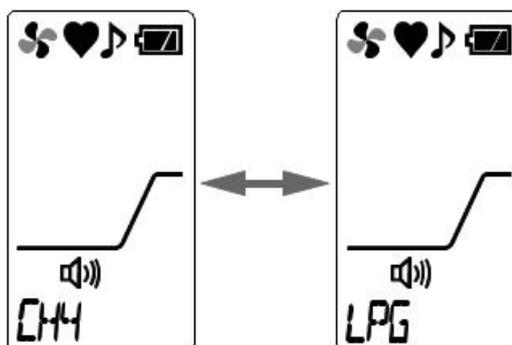
- 1 ディスプレイモードの「**GAS LIST**」画面で、**POWER** ボタンを押す  
ガス読み替え設定へ遷移します。



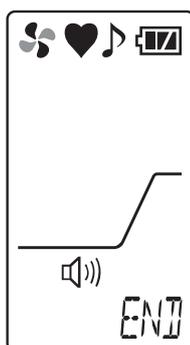
現在設定されているガス名が表示されます。



- 2 **MODE** ボタンまたは **AIR** ボタンを押して、読み替えるガス名を選択する  
ボタンを押すたびに、ガス名が切り替わります。



- 3 目的のガス名が表示されたら、**POWER** ボタンを押す  
「END」が表示され、ディスプレイモードに戻ります。



## 5-3. ログデータ表示

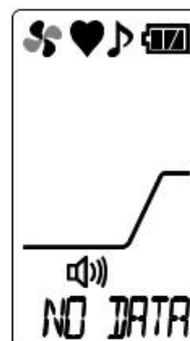
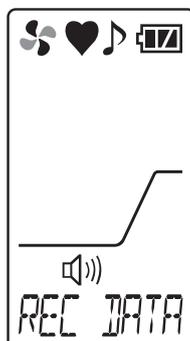
スナップログで記録したデータを見ることができます。

時計機能 ON 時のみ「REC DATA」画面が表示されます（「6-3.時計機能 ON/OFF 設定 (P.30)」参照）。

（表示例：都市ガス用の場合）

- 1 ディスプレイモードの「**REC DATA**」画面で、**POWER** ボタンを押す

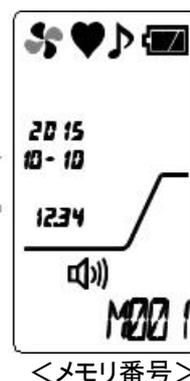
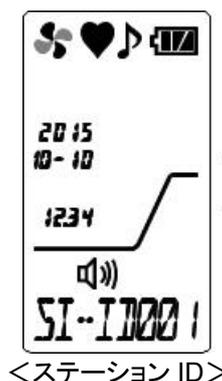
ログデータ表示へ移行します。  
記録された日時とステーション ID、  
メモリ番号が交互に表示されます。  
記録データが無い場合は  
「NO DATA」と表示されます。



※記録データが無い場合

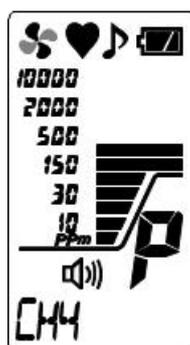
- 2 **MODE** ボタンまたは **AIR** ボタンを押して、表示させるログデータを選択する

ボタンを押すたびに、記録内容が切り替わります。



- 3 目的のログデータが表示されたら、

**POWER** ボタンを押す  
選択したメモリのガス名とピーク表示が交互に表示されます。



- 4 終了するときは、**MODE** ボタンと **AIR** ボタンを同時に押す  
ディスプレイモードに戻ります。

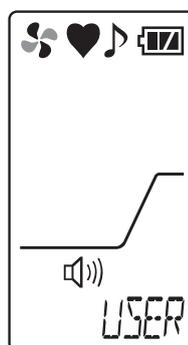
## 6

## ユーザーモードの設定方法

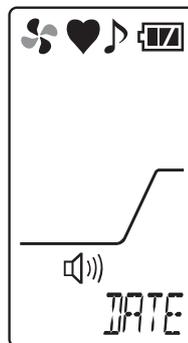
## 6-1. ユーザーモードへの遷移

内部時計の補正などの保守を行うことができます。  
(表示例: 都市ガス用の場合)

- 1 検知モードで、**MODE** ボタンを数回押して、“**USER**”を表示させ、その後 **POWER** ボタンを押す。  
ユーザーモードの日時設定に遷移します。



- 2 続けて **MODE** または **AIR** ボタンを押して、該当メニューを表示させる  
押すたびに、ユーザーモードの設定画面が切り替わります。

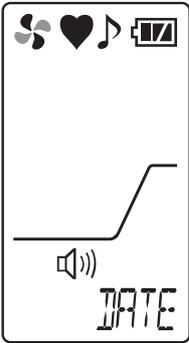
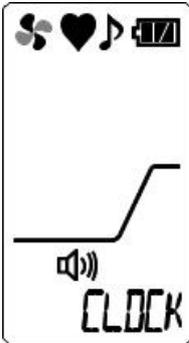
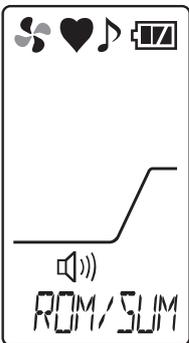
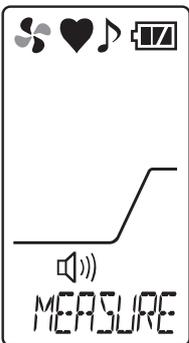


- 3 設定項目を選択して、**POWER** ボタンを押す  
設定項目については、「ユーザーモードの概要」(P.28)を参照してください。

**注意**

- 使用後は、検知モードに戻してください。

## ユーザーモードの概要

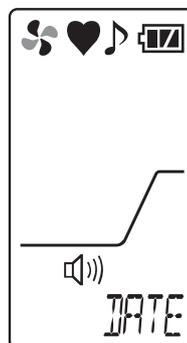
項目	LCD 表示	内容
日時設定		<p>内部時計の日時設定を行います。 (P.29)</p> <p>※時計機能 OFF の場合、日時設定画面は表示されません。</p>
時計機能 ON/OFF 設定		<p>時計機能 ON/OFF 設定を行います。</p>
ROM/SUM 表示		<p>本器のプログラム番号および SUM 値を表示します。 ※通常、お客様においては使用しません。</p>
検知モード遷移		<p>終了する場合、<b>POWER</b> ボタンを押して検知モードへ遷移します。</p>

## 6-2. 日時設定

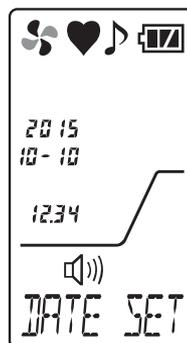
内部時計の日時設定を行います。

時計機能 ON 時のみ日時設定画面が表示されます。6-3. 時計機能 ON/OFF 設定 (P.30) で時計機能を ON にしてから日時設定を行ってください。

- 1 ユーザーモードの「DATE」画面で、**POWER** ボタンを押す  
日時設定へ遷移します。

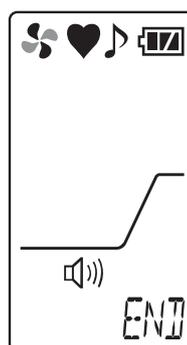


- 2 **MODE** または **AIR** ボタンを押して、日時を合わせ、**POWER** ボタンを押す



- 3 年→月→日→時→分の順に、日時を設定する

「分」を決定すると、「END」表示の後、ユーザーモードメニューへ戻ります。

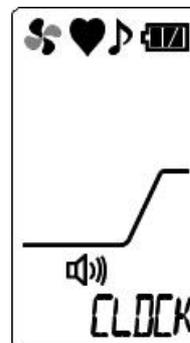


## 6-3. 時計機能 ON/OFF 設定

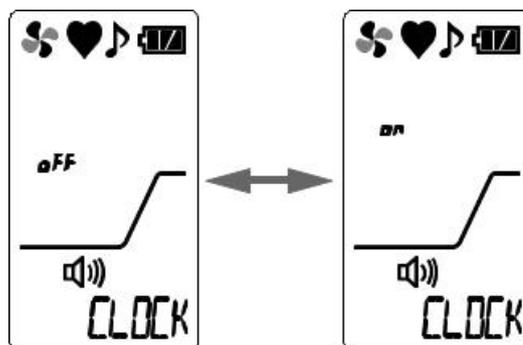
時計機能 ON/OFF 設定を行います。

初期設定は時計機能 OFF 設定になっていますが、起動時に日時を表示させたい場合やスナップログ機能を使用する場合には時計機能を ON に設定してください。

- 1 ユーザーモードの「**CLOCK**」画面で、**POWER** ボタンを押す

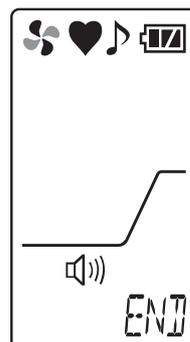


- 2 **MODE** または **AIR** ボタンを押して、時計機能 ON/OFF を選択し、**POWER** ボタンを押す



- 3 設定終了

時計機能 ON/OFF 設定終了後、「END」表示の後、ユーザーモードメニューへ戻ります。



### 注記

- 時計機能を OFF→ON に設定した場合、不正な日時であると時計異常 (FAIL CLOCK) が表示されます。**MODE** ボタンを押して異常状態を解除すると日時設定画面に遷移しますので、6-2「日時設定」(P.29)に従い、日時の設定を行ってください。
- 初めて時計機能を OFF→ON にした場合、電池交換の際などに電池を外した状態で 5 分間以上放置した後に電源を入れた場合、または電池の極性を誤って挿入したまま電源を入れた場合の後に時計機能を OFF→ON にすると時計異常 (FAIL CLOCK) が表示されます。

## 7

## 警報機能

## 7-1. ガス警報動作

本器の「ガス警報」は、検知したガス濃度が警報設定値に達したとき、または警報設定値を超えたときに、警報ランプの点滅とブザーの鳴動、バーメータ表示で発報します。(自動復帰動作)

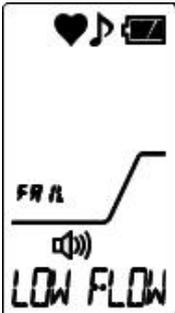
ガス警報の警報ランプ点滅動作、ブザーの鳴動は、検知濃度により周期が変わります。

## 7-2. 故障警報動作

「故障警報」は、本器内での異常動作を検知したときに、ブザーの鳴動と警報ランプの点滅で、故障警報を発報します。(自己保持動作)

故障警報時には、LCD に以下の故障内容を表示します。

- |         |                 |         |                |
|---------|-----------------|---------|----------------|
| ・システム異常 | : FAIL SYSTEM   | ・電池電圧低下 | : FAIL BATTERY |
| ・校正異常   | : FAIL AIR CAL  | ・時計異常   | : FAIL CLOCK   |
| ・流量低下   | : FAIL LOW FLOW | ・ポンプ異常  | : FAIL PUMP    |
| ・センサ異常  | : FAIL SENSOR   |         |                |

警報ランプ	約 1 秒周期の点滅動作の繰り返し
ブザー	約 1 秒周期の断続鳴動の繰り返し ピッピ、ピッピ
LCD 表示	流量低下 (LOW FLOW) の表示例 

故障警報の発報時には、原因を究明し適切に対処してください。

機器に問題があり、故障が頻発する場合は、速やかに弊社営業所にお問い合わせくださいますようお願いいたします。

## 注記

- 流量低下警報 (FAIL LOW FLOW)、校正異常 (FAIL AIR CAL)、時計異常 (FAIL CLOCK) は、**MODE** ボタンを押すことにより解除できます。
- 故障内容 (エラーメッセージ) の詳細については「トラブルシューティング」(P.39) を参照してください。

## 8

## 保守点検

本器は精密機器です。

本器の性能を維持し、ガス漏洩検知の信頼性を向上するために、定期的な保守・点検を実施してください。

## 8-1. 点検の頻度と点検項目

使用される前に、以下の項目を定期的に点検してください。

- ・日常点検: 作業前に点検します。
- ・1ヶ月点検: 1ヶ月に1回、警報テストを行ってください。
- ・定期点検: 機器の性能を維持するため、1年に1回以上の頻度で点検を実施してください。

点検項目	点検内容	日常点検	1ヶ月点検	定期点検
電池残量の確認	電池残量が十分であることを確認してください。	○	○	○
濃度表示の確認	新鮮な空気を吸引させて濃度表示値が0であることを確認してください。指示がずれている場合は、周囲に雑ガスがないことを確認してエア校正でゼロ調整を行ってください。	○	○	○
流量の確認	フロー確認表示により、異常がないことを確認してください。	○	○	○
フィルタの確認	ダストフィルタの汚れ具合や目詰まりがないかを確認してください。	○	○	○
ガス校正	試験用標準ガスを用いてガス校正を行ってください。	—	—	○

## メンテナンスサービスについて

弊社では、ガス感度校正などを含めた定期点検、調整、整備などに関するサービスを行っております。校正用ガスを作製するには、所定濃度のガスボンベや、ガス袋など専用器具が必要となります。弊社指定のサービス員は、作業を行う上での専用器具や、その他製品に関する専門知識などを備えたスタッフで構成されております。機器の安全動作を維持するために、弊社メンテナンスサービスをご利用いただきますようお願いいたします。

メンテナンスサービスの主な内容を以下に記します。詳細は、販売店または最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。

### <主なサービスの内容>

項 目	内 容
電池残量の確認	電池残量の確認を行います。
濃度表示の確認	ゼロガスを用いて濃度表示値が0であることを確認します。 指示がずれている場合はエア校正を行います。
流量の確認	流量表示を確認し、異常がないか確認します。 外部の流量計を用いて、流量の確認を行い、本器流量表示の確かさを確認します。流量にずれがある場合は、流量調整を行います。
フィルタの確認	ダストフィルタの汚れ具合や目詰まりがないかを確認します。 汚れが目立つ場合や、目詰まりを起こしている場合は交換を行います。
ガス感度校正	校正用ガスを用いて感度校正を行います。
機器の清掃・修繕 (目視診断)	機器外観の汚れや傷を確認し、目立った箇所を清掃・修繕します。 亀裂や破損がある場合は部品の交換を行います。
機器の操作確認	ボタン操作をして各種機能の動作確認や、パラメータなどのチェックを行います。
劣化部品の交換	センサやフィルタ、ポンプなど劣化部品の交換を行います。

## 8-2. 清掃方法

本器が著しく汚れた場合は清掃を行ってください。清掃する際は、必ず電源を切った状態で、ウエスなどで汚れを拭き取ってください。水拭きや有機溶剤を使用して清掃すると、故障の原因となりますので使用しないでください。テーパノズルの内部が著しく汚れている場合は、ガス検知に影響を及ぼす可能性がありますので、ドライエアなどでクリーニングを行ってください。



### 注意

- 本器の汚れを拭き取る際は、水をかけたり、アルコールやベンジンなどの有機溶剤を使用したりしないでください。本器の表面の変色や損傷およびセンサの故障の原因となります。

### 注記

- 本器が濡れた後は、ブザー放音口や溝に水が溜まっている場合があります。以下の手順で水抜きを行ってください。
  - ① 本器に付着した水分を乾いたタオル、布などでよく拭き取る
  - ② 本器をしっかり持ち、ブザー放音口を下に向けて 10 回程度振る
  - ③ 内部から出てきた水分をタオル、布などでよく拭き取る
  - ④ 乾いたタオル、布などを下に敷き、常温で放置する

## 8-3. 各部品の交換

### テフロンフィルタの交換手順

テフロンフィルタは、使用を続けていると、汚れたり・詰まったりすることがあります。汚れが目立ってきたら交換してください。また水を吸引した場合や、流量が下がった場合も、フィルタを交換してください。

#### 1 キャップを反時計方向に回して外す



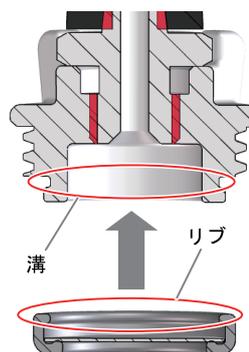
#### 2 キャップからパッキンを取り外す



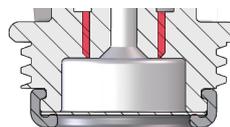
- 3** パッキン内部に入っているテフロンフィルタを、新品に取り替える



- 4** テフロンフィルタを取り付けたパッキンを、キャップに取り付ける  
このとき、溝とリブがしっかりはまっていることを確認してください。



- 5** パッキンの付いたキャップを本体に取り付ける

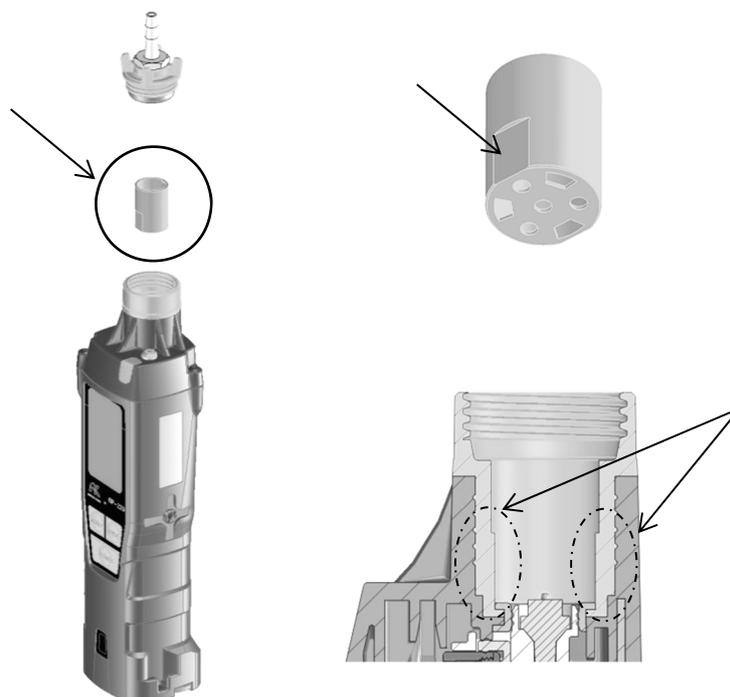


## 雑ガス除去フィルタ(CF-8392 型)の交換手順

雑ガス除去フィルタ(CF-8392 型)はシリコン・硫化物等のセンサにダメージを与える雑ガスを除去する目的で本器に組み込まれています。

長期間使用を続けていると、汚れたり・詰まったり、雑ガス除去能力が低下することがあります。水・油等を吸引した場合や、目詰まりによる流量低下警報が発生した場合、センサ感度の著しい低下が見られた場合にフィルタを交換してください。

フィルタ両側の溝をケースのガイドにスライドさせて取り付けてください。



## センサの交換

本器に内蔵しているセンサには有効期限(保証期間 1 年)があり、定期的に交換が必要です。

ガス感度校正の際に、「校正できない」、「エア校正しても指示が戻らない」、「指示がふらつく」などの症状がみられたら、センサの寿命です。

販売店または最寄りの弊社営業所までご依頼ください。

## 電池の交換

電池の交換方法は、「電池の交換方法」(P.12)を参照してください。

## 9

# 保管および廃棄について

## 9-1. 保管または長期間使用しない場合の処置

本器は以下の環境条件内で保管してください。

- ・常温、常湿、直射日光の当たらない暗所
- ・ガス、溶剤、蒸気などの発生しない場所

本器が収納されている梱包箱がある場合は、それに入れて保管してください。

梱包箱がない場合は、埃などを避けて保管してください。



### 注意

- 本器を長期間使用しない場合は、乾電池を外して保管してください。乾電池の液漏れにより、火災、ケガなどの原因となることがあります。
- 本器を長期間使用しない場合でも、6 ヶ月に一度は電源を入れ、ポンプが吸引することを確認してください(3 分間程度)。長期間動作させずにいると、ポンプのモータ内のグリスが固まり動作しなくなることがあります。

## 9-2. 再度使用する場合の処置



### 注意

- 本器を保管後、再度使用する場合は、必ずガス校正を行ってください。
- ガス校正を含め、再調整は、販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。

## 9-3. 製品の廃棄

本器を廃棄する場合は、産業廃棄物(不燃物)として地域の法令などに従い、適切な処理をしてください。



### 警告

- 乾電池を廃棄する際は、地域ごとに定められた方法に従って処分してください。

### <EU加盟各国内での廃棄について>

EU 加盟各国内で、本器を廃棄する際は電池を分別してください。取り外した電池については、EU加盟各国内の法令などに従い、各地域の分別収集システムやリサイクル制度に従い、適切な処理をしてください。

#### 電池の取り外し方

電池の取り外し方については、「4-3.電池の交換方法 (P.12)」を参照してください。

### 注記

#### クロスドアウトリサイクルダストビンマークについて

このシンボルマークは、EU 電池指令 2006/66/EC に該当する電池を内蔵している製品に表示されており、電池を適切な方法で廃棄していただく必要があります。このシンボルマークは、電池を廃棄する際に一般ゴミとは分別して処理する必要があることを意味しています。



## 10

## トラブルシューティング

このトラブルシューティングは、すべての不具合の原因を記載したものではありません。よく発生する不具合の原因究明の手助けとなるものを簡単に記載しています。

ここに記載されていない症状や対策を行っても復旧しない場合は、販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。

## ＜機器の異常＞

症 状	原 因	処 置
電源が入らない	電池が極端に消耗している	安全な場所で、2 本とも新品の電池に交換してください。
	POWER ボタンを押す時間が短い	電源を入れるときは“ピッ”と音が出るまで POWER ボタンを押し続けてください。
	乾電池の実装不良	電池が正しく本体に装着されているか確認してください。
異常な動作をする	突発的な静電気ノイズなどによる影響	いったん電源を切り、再度電源を入れて(再起動)ください。
操作ができない	突発的な静電気ノイズなどによる影響	安全な場所で、いったん電池を外してから、再度電池を取り付け、電源を入れて操作してください。
システム異常 FAIL SYSTEM	本体回路に異常がある	販売店または最寄りの弊社営業所まで修理をご依頼ください。
センサ異常 FAIL SENSOR	センサが故障している	新鮮な空気中で、いったん電池を外してから、再度電池を取り付け、電源を入れて操作してください。数回再起動しても同様のエラーとなる場合は、販売店または最寄りの弊社営業所までセンサ交換をご依頼ください。
電池電圧低下警報が表示されている FAIL BATTERY	電池残量がなくなっている	電源を切り、安全な場所で新品の乾電池に交換してください。
流量低下警報が表示されている FAIL LOW FLOW	水、油などを吸い込んでいる	テーパノズルに、損傷や、水・油など吸い込み跡がないかを確認してください。
	テーパノズルが詰まっている	テーパノズルの接続状態や、詰まり、ねじれなどを確認してください。

10. トラブルシューティング

症 状	原 因	処 置
	低温で電源を入れた、または長期間使用していない	電源を数回入れ直してください。ポンプが動作し始めることがあります。改善しない場合は、販売店または最寄りの弊社営業所までポンプ交換をご依頼ください。
	ポンプが劣化している	販売店または最寄りの弊社営業所までポンプ交換をご依頼ください。
エア校正ができない FAIL AIR CAL	本器の周囲に新鮮な空気が供給されていない	新鮮な空気を供給し、測定雰囲気エア校正を行ってください。
時計異常 FAIL CLOCK	内部の時計異常	日時設定を行ってください。 頻繁にこのような症状が起こる場合は内部時計の故障が考えられ、交換する必要があります。販売店または最寄りの弊社営業所まで修理をご依頼ください。
ポンプ異常 FAIL PUMP	ポンプ異常	販売店または最寄りの弊社営業所に修理をご依頼ください。

## 11

## 製品仕様

型式	SP-220(TYPE M)	SP-220 (TYPE L)	SP-220 (TYPE ML)
検知原理	熱線型半導体式		
検知対象ガス	都市ガス (LPG 切替可能)	LPG (都市ガス切替可能)	都市ガス・LPG (切替)
校正ガス	都市ガス(CH4)校正	LPG(i-C4H10)校正	LPG(i-C4H10)校正 都市ガス(CH4)校正 ※2 ガス校正
濃度表示	LCD バーメータ+目盛		
検知範囲	10~10000ppm		
検知方式	ポンプ吸引式		
警報設定値	初期値: 30ppm(10,30,150,500,2000ppm の 5 段階で設定可)		
各種表示	動作状態表示、フロー確認表示、警報音表示、操作音表示、 電池残量表示、バーメータ表示、モード表示、ガス名/メッセージ表示		
応答時間(同一条件下)	3 秒以内		
ガス警報タイプ	1 段警報		
ガス警報表示	ランプ点滅/ブザー鳴動		
ガス警報動作	自動復帰		
故障警報	センサ異常/流量低下/電池電圧低下/システム異常/校正異常/時計異常/ポンプ異常		
故障警報表示	ランプ点滅/ブザー鳴動/故障内容表示		
故障警報動作	自己保持		
電源	単 3 形アルカリ乾電池×2 本		
連続使用時間	約 13 時間(アルカリ乾電池・20℃・無警報・無照明時)		
使用温度範囲	-20~55℃		
使用湿度範囲	95%RH 以下(結露なきこと)		
防爆構造	本質安全防爆構造		
防爆等級	Ex ia II C T4(Japan Ex) II 1G Ex ia II C T4 Ga(ATEX/UKEX) Ex ia II C T4 Ga(IECEx)		
保護等級	IP55 相当		
外形寸法	約 200(H) ×43(W) ×39(D)mm(突起部は除く)		
質量	約 215g(乾電池を除く)		

※本器は微量なガスリークを検知する目的で使用するため、ガス濃度値は目安になります。

# 12 付録

## 12-1. 用語の定義

vol%	ガス濃度を体積の百分の1の単位で表したものです。
ppm	ガス濃度を体積の百万分の1の単位で表したものです。
LEL	爆発下限界の対応英語「Lower Explosion Limit」の略語。 爆発下限界とは可燃性ガスが空気と混合して、着火によって爆発を起こす最低濃度。



# EU-Declaration of Conformity

Document No.: 320CE22074



We, RIKEN KEIKI Co., Ltd. 2-7-6, Azusawa, Itabashi-ku, Tokyo, 174-8744 Japan declare under our sole responsibility that the following product conforms to all the relevant provisions.

Product Name: Portable Gas Leak Detector  
Model: SP-220(TYPE M), SP-220(TYPE L),  
SP-220(TYPE ML), SP-220(TYPE F),  
SP-220(TYPE H2)

Council Directives		Applicable Standards
2014/30/EU	EMC Directive	EN 50270:2015
2014/34/EU	ATEX Directive	EN IEC 60079-0:2018 EN 60079-11:2012
2011/65/EU <sup>[1]</sup>	RoHS Directive	EN IEC 63000:2018

<sup>[1]</sup>Including substances added by Commission Delegated Directive (EU) 2015/863

EU-Type examination Certificate No.

Presafe 15 ATEX 7188X

Notified Body for ATEX

DNV Product Assurance AS (NB 2460)  
Veritasveien 1  
1363 Høvik  
Norway

Auditing Organization for ATEX

DNV Product Assurance AS (NB 2460)  
Veritasveien 1  
1363 Høvik  
Norway

The marking of the product shall include the following:

 II 1 G Ex ia IIC T4 Ga

Place: Tokyo, Japan

Date: Jun. 29, 2022

Takakura Toshiyuki  
General manager  
Quality Control Center



# UK-Declaration of Conformity

Document No.: 320UK22041



We, RIKEN KEIKI Co., Ltd. 2-7-6, Azusawa, Itabashi-ku, Tokyo, 174-8744, Japan declare under our sole responsibility that the following product conforms to all the relevant provisions.

Product Name: Portable Gas Leak Detector  
Model: SP-220(TYPE M), SP-220(TYPE L),  
SP-220(TYPE ML), SP-220(TYPE F),  
SP-220(TYPE H2)

Regulations	UK designated Standards
Electromagnetic Compatibility Regulations 2016 (S.I. 2016/1091)	BS EN 50270:2015
The Equipment and Protective Systems Intended for Use in Potentially Explosive Atmospheres Regulations 2016 (S.I. 2016/1107) (UKEX)	BS EN IEC 60079-0:2018 BS EN 60079-11:2012
The Restriction of the Use of Certain Hazardous Substances in Electrical and Electronic Equipment Regulations 2012 (S.I. 2012/3032)	BS EN IEC 63000:2018

UK-Type examination Certificate No.

DNV 22 UKEX 25920X

Approved Body for UKEX

DNV Business Assurance UK Ltd (AB8501)  
4th Floor Vivo Building, 30 Stamford Street,  
London SE1 9LQ, United Kingdom

Auditing Organization for UKEX

DNV Business Assurance UK Ltd (AB8501)  
4th Floor Vivo Building, 30 Stamford Street,  
London SE1 9LQ, United Kingdom

The marking of the product shall include the following:

 II 1 G Ex ia IIC T4 Ga -20°C≤Ta≤+55°C

Place: Tokyo, Japan

Date: Nov. 18, 2022

Takakura Toshiyuki  
General manager  
Quality Control Center